

# 外部点検対象事業 取組状況調査票

外部点検対象事業 取組状況調査票

所属	商工振興課
----	-------

Ⅰ. 事業概要

点検年度	H 2 9	事業名	まちなか賑わい創出事業、民間によるまちなか活性化活動支援事業	所属	商工労働部 商工振興課
事業目的	<p>(まちなか賑わい創出事業)</p> <p>中心市街地ならではの文化・情報の集積と発信機能を活かしたイベント等を実施することで、まちなかの賑わいの創出と集客力の向上を図る。</p> <p>(民間によるまちなか活性化活動支援事業)</p> <p>ハピリンが開業し、その後の福井国体や北陸新幹線の県内延伸を控え、まちなかに対する民間の投資意欲の高まりが見られる。この機運を捉え、さらなる魅力向上及び継続的な賑わい創出を図るため、民間主体のまちづくり活動を支援する。</p>				

Ⅱ. 外部点検の提案内容及び提案を踏まえた具体的な取組内容（令和３年７月末時点）

提案内容	<p>①まちなかの魅力・メリットの実現は、単一の部署で政策は進められないため、他の部署と連携し、十分な論議をしないといけない</p> <p>②文化や芸術は採算の合いにくいテーマであり、団体を育てる部署と連携することが必要</p> <p>③中心市街地の活性化の中で、商業が占める割合は将来的にどの程度になっていくのかということを見極めながら、事業を進めなければならない</p> <p>④中心市街地の賑わいや活性化に対して、どんな機能に力を入れるのかは、再検討する必要がある</p> <p>⑤福井市民から見た中心市街地の位置付けを考えた時、我々としては中心市街地が福井を代表する場所だと言いたい、どんな機能で魅力を創出するのかを、これから考えないといけない</p>
提案を踏まえた具体的な取組内容	<p>① 令和元年度から、福井商工会議所、まちづくり福井、市の関係部署がまちなかの状況や各団体の取り組み等について協議する場を定期的に設けるなど、様々な関係者と密に連携しながら各事業を進めている。</p> <p>② 文化・芸術をテーマとする取り組みについては、関係する複数の部署において、実施時期や連携可能性などを共有・協議しており、全体としてより効果的な取り組みになるよう工夫をしている。また、令和２年度から、プレイヤーの増加や育成を図るため、まちなかでのイベント実施に係る一元化した相談・調整窓口「まちなかイベントプラットフォーム」を開設し、文化・芸術に関わる市民や団体が主体的にイベントを実施できる仕組みを目指している。</p> <p>③④⑤</p> <p>新型コロナウイルスの影響を受け、非対面式のネットビジネスが加速しており、ファッション衣類や雑貨など物販関連業を中心に厳しい状況が続いている。このようななか、今後の中心市街地に求められる役割は、商業のみならず、オフィスや公共空間など多様な機能により、幅広い世代にとって魅力的なまちであることが求められる。</p> <p>令和２年度には、福井商工会議所・県・福井市が共同で「県都にぎわい創生協議会」を立ち上げ、まちなかに持続的な賑わいを作るための具体的な議論を進めている。最終的には、北陸新幹線福井開業後を見据えた中心市街地の長期的な将来像をグランドデザインとして策定し、福井の生活・文化の中核としての役割を果たせるよう、様々な取り組みを進めていく。</p>

外部点検対象事業 取組状況調査票

所属	住宅政策課
----	-------

Ⅰ. 事業概要

点検年度	H 2 9	事業名	居住推進支援事業（まちなか住まい支援事業）	所属	建設部 住宅政策課
事業目的	市街地中心部では、コンパクトなまちづくりの一環として、良質な住宅ストックの形成支援などを行う一方、市内全域では、多世帯同居・近居のための住宅支援や空き家の循環利用促進支援などを行い、住環境の向上を図ることで、市への居住推進につなげる。 ＜まちなか住まい支援事業＞都心部の空洞化を防止し、社会動態をプラスにすることを目的として、良質な住宅ストックの形成支援などを行う。				

Ⅱ. 外部点検の提案内容及び提案を踏まえた具体的な取組内容（令和３年７月末時点）

提案内容	①まちなかの魅力・メリットの実現は、単一の部署で政策は進められないため、他の部署と連携し、十分な論議をしないといけない ②市民が本当にどんな志向を持っているのか、どんな行動特性なのかをもう一度分析した上で、オリジナルの制度を提案してほしい。今のメニューは大都市型になっており、ニーズがあるところに対する供給となっている。ニーズを誘発する政策が必要である ③市民に対して、まちなか居住、郊外、田舎暮らしの魅力・メリット・コストを整理し、住む場所に対する情報をまとめないといけない ④小学校入学時が、世帯が動く節目であり、ターゲットを合わせた政策や支援を用意するといいいのではないか。ターゲットを明確にし、強くメリハリをつけてほしい
提案を踏まえた具体的な取組内容	①～④ まちなか住まい支援事業は、中心市街地を含む「まちなか地区」への居住推進を図るため、「福井市都心居住推進プラン」に基づき取り組んだ事業である。当プランは平成 16 年度から平成 29 年度を計画期間としていたため、平成 29 年度末にプランの取組みの成果の検証を行い、以降の事業の在り方の検討を行った。また、平成 30 年度には都市部局で立地適正化計画が策定され、新たに居住誘導区域等が定められることから、これらの区域と連動させ一層効果的な施策ができるよう、平成 30 年度よりまちなか住まい支援事業を終了し、まちなか地区を含む居住誘導区域等での移住定住サポート事業として実施している。



外部点検対象事業 取組状況調査票

所属	住宅政策課
----	-------

Ⅰ. 事業概要

点検年度	H 2 9	事業名	居住推進支援事業（空き家ストック循環利用促進事業）	所属	建設部 住宅政策課
事業目的	市街地中心部では、コンパクトなまちづくりの一環として、良質な住宅ストックの形成支援などを行う一方、市内全域では、多世帯同居・近居のための住宅支援や空き家の循環利用促進支援などを行い、住環境の向上を図ることで、市への居住推進につなげる。 ＜空き家ストック循環利用促進事業＞市内全域で、空き家のリフォーム支援を始めとした、空き家の循環利活用支援を行う。				

Ⅱ. 外部点検の提案内容及び提案を踏まえた具体的な取組内容（令和 3 年 7 月末時点）

提案内容	①まちなか居住も含めて、条件の入力による支援制度の提示など、市民目線の分かりやすい情報提供 ②空き家の調査をするということだが、しっかりと分析をし、政策に反映してほしい。利用した人にアンケートをし、意見を十分に聞くことも必要 ③空き家情報バンクについて、もっと行政の強みを活かしてほしい ④調査やその分析を踏まえ、もっと戦略的に事業を展開してはどうか。まちなか地区だけでなく、それぞれの地域の特性を活かしてはどうか ⑤行政でしか出来ないことを、合わせ技で行ってほしい
提案を踏まえた具体的な取組内容	① 市民が支援制度を選択しやすくなるよう、平成 30 年度より居住推進支援事業の全制度を住宅の種類や世帯構成を選択し、適合する支援制度が一目でわかるように図式化したものを支援制度のチラシやホームページ上での掲載、窓口での相談等で広く活用し、市民目線のわかりやすい情報の提供に努めている。 ② 平成 29 年度に市内全域で空き家等実態調査を実施し、「空き家等ではないか」と判断された 1,695 件のうち、比較的利活用が可能と思われる建築物の所有者 1,115 名に対して、利活用に関するアンケート調査を行った。アンケートで、「建築物の利活用のために、不動産や建築団体に相談したい」と回答した所有者の中で、個人情報の外部提供に関して同意した所有者については、市から不動産団体や建築団体に、建物や所有者等に関する情報提供を行った。不動産団体等は直接所有者に接触し、所有者の意向に応じた利活用についての働きかけを行った。 ③ 平成 29 年度に実施した空き家等実態調査で「空き家等ではないか」と判断された 1,695 件のうち、比較的利活用が可能と思われる空き家の掘り起こしを行い、市場への流通を促した。さらに、平成 29 年度より各自治体の空き家情報バンクに登録された物件を公開する「全国版空き家情報バンク」に登録することで、全国規模で比較しながら物件を一度に検索できるようになるなど、情報発信の強化を図っている。併せて空き家の取得などの補助制度については、空き家情報バンクに登録された物件に限定するなど、空き家情報バンクの活性化を図り、空き家の利活用を促している。 ④ 空き家問題は市内全域で取り組んでいく必要があることから、空き家ストック循環利用促進事業では対象を市内全域としており、その中で平成 30 年度まではまちなか地区内の空き家に対しては補助金に加算していた。平成 30 年度末に都市部局が立地適正化計画で居住誘導区域等を設定したことに伴い、これらの区域と連動させた効果的な施策にするために、まちなか地区を含む居住環境再構築区域にエリアを拡大し、加算している。 ⑤ 平成 30 年度より空き家等対策協議会に参画している関係団体と連携した空き家無料相談会を開催している。建築・不動産・法務関係の専門家を相談員とし、空き家についてワンストップで解決できる機会となっており、毎回 20 組程度の空き家所有者の相談を受け付けている。平成 29 年度の空き家等実態調査やその後の調査で発見した空き家の所有者に相談会について周知し、空き家の利活用や管理不全空き家の解消を促している。

外部点検対象事業 取組状況調査票

所属	住宅政策課
----	-------

Ⅰ. 事業概要

点検年度	H 2 9	事業名	居住推進支援事業（移住定住サポート事業）	所属	建設部 住宅政策課
事業目的	市街地中心部では、コンパクトなまちづくりの一環として、良質な住宅ストックの形成支援などを行う一方、市内全域では、多世帯同居・近居のための住宅支援や空き家の循環利用促進支援などを行い、住環境の向上を図ることで、市への居住推進につなげる。 ＜移住定住サポート事業＞市内全域で、多世帯同居・近居のための住宅支援などを行う。				

Ⅱ. 外部点検の提案内容及び提案を踏まえた具体的な取組内容（令和 3 年 7 月末時点）

提案内容	<p>① まちなか居住も含めて、条件の入力による支援制度の提示など、市民目線の分かりやすい情報提供</p> <p>② 空き家の調査をするということだが、しっかりと分析をし、政策に反映してほしい。利用した人にアンケートをし、意見を十分に聞くことも必要</p> <p>③ 移住には目が向いているが、定住は支援が弱い</p> <p>④ 移住については、住宅政策だけでなく、コミュニティ、防災、働く場、子育てや教育との一層の連携をお願いしたい</p> <p>⑤ これからの時代背景として、親世代が子どもと同居したいと思わなくなっている。よって、これからは近居の薦めが 1 つの方向性ではないか</p>
提案を踏まえた具体的な取組内容	<p>① 市民が支援制度を選択しやすくなるよう、平成 30 年度より居住推進支援事業の全制度を住宅の種類や世帯構成を選択し、適合する支援制度が一目でわかるように図式化したものを支援制度のチラシやホームページ上での掲載、窓口での相談等で広く活用し、市民目線のわかりやすい情報の提供に努めている。</p> <p>② 平成 29 年度に市内全域で空き家等実態調査を実施し、「空き家等ではないか」と判断された 1,695 件のうち、比較的利活用が可能と思われる建築物の所有者 1,115 名に対して、利活用に関するアンケート調査を行った。アンケートで、「建築物の利活用のために、不動産や建築団体に相談したい」と回答した所有者の中で、個人情報の外部提供に関して同意した所有者については、市から不動産団体や建築団体に、建物や所有者等に関する情報提供を行った。不動産団体等は直接所有者に接触し、所有者の意向に応じた利活用についての働きかけを行った。また、多世帯同居・近居支援事業補助金等の利用者にもアンケートを実施しており、同居・近居のきっかけやメリット、意見等を聞くことで、施策の参考としている。</p> <p>③ 平成 27 年度から実施している多世帯同居・近居支援事業は、子育てや介護に関して親子間での相互扶助をメリットとしており、定住者の方が活用可能な支援であるため、活用を促すことで、定住者の増加につなげている。また、子育て世帯等が関係する各種事業等を紹介する冊子の「はぐくむ BOOK」に支援事業を掲載する等、関係所属と連携しながら定住推進に取り組んでいる。</p> <p>④ 平成 29 年度から市内の移住担当者会議に参画し、関係所属（総務部局、商工部局、農林部局、東京事務所等）と、移住に関するセミナーや支援制度について定期的に情報共有し、連携を図っている。また令和 2 年度からは移住定住促進室が設置され、移住定住の相談窓口を一本化することで、移住者の受け入れ態勢を強化している。</p> <p>⑤ 子世帯と同居したくないと思う親世帯の増加に伴い、近居を推進していくことはひとつの方向性ではあるものの、一方で、依然として福井県は三世代同居率が全国的に高く、同居は福井らしい特色ある住まい方である。三世代同居・近居は子育て世帯と親世帯が助け合って生活できる住環境であるため、今後も引き続き支援制度を実施し、三世代同居・近居を推進していく。</p>



外部点検対象事業 取組状況調査票

所属	地域交通課
----	-------

Ⅰ. 事業概要

点検年度	H 2 9	事業名	コミュニティバス事業	所属	商工労働部 商工振興課 (R 2 年度から地域交通課に所管変更)
事業目的	中心市街地への来街手段を提供し、まちなかの賑わい創出を図る。				

Ⅱ. 外部点検の提案内容及び提案を踏まえた具体的な取組内容（令和 3 年 7 月末時点）

提案内容	<p>①年齢別など、乗る人の統計やアンケート調査をしなければならない</p> <p>②I C カードを持っている人を把握することが必要</p> <p>③住民、事業者、行政の 3 者で話をし、利用増のための策を提案してもらう</p> <p>④路線は、出来れば乗っている人の利便を考える</p> <p>⑤買い物をすると駐車場が無料となるサービスはどうか</p> <p>⑥家にいて電話をしなくてもバスの状況が分かるアプリを作ってもらえれば</p>
提案を踏まえた具体的な取組内容	<p>① 平成 3 1 年 4 月のルート・ダイヤの変更に向けて、平成 2 9 年には利用者アンケート、平成 3 0 年には沿線住民及び運転士のアンケート、先進地視察を行った。また同年には 5 回に分けて新ルートでの試走を行い、各年 1 回停留所乗降者調査を行った。その調査等を踏まえ利用実態の分析等を実施した。</p> <p>まちづくり福井(株)のすまいるバス事業終了に伴い、令和 3 年 1 0 月からは京福バスが運営主体となる。今後は、通勤・通学での利用が増え、お買い物バスとしての役割が変化している現状に対応し、新幹線開業までにより利便性の高い交通にするため、利用者アンケート等を活用し、利用者の意見も反映させたルートおよびバス停を設定することを検討する。</p> <p>② すまいるバス事業終了に伴い、I C カード「ICOU SA」については廃止となる。</p> <p>③④</p> <p>平成 3 1 年 4 月にルート・ダイヤの変更を行い、定時性確保、様々な利用目的に対応するためのルート変更を行った。平成 3 1 年度の利用者数については、新型コロナウイルスの影響で令和 2 年 3 月の利用が大きく落ち込んだため、全体的に前年度と比べ減少したが、北ルート以外は利用者数が増加した。</p> <p>令和 3 年 1 0 月からは通勤通学に配慮したダイヤに変更し、早朝、夜間の時間帯を伸ばす予定である。特にルート内に学校があるところについては、早めのダイヤにすることで、利便性向上につながると考えている。</p> <p>⑤ 福井駅前商店街振興組合が提供する「すまいるバス 1 回無料乗車券」については継続使用されていたが、令和 3 年 6 月から新たにまちづくり福井(株)が窓口となり、まちなかの主要な駐車場で使用できる共通の駐車サービス券事業を始めた。まちなかの加盟店に 1 0 0 円または 3 0 0 円の駐車券を販売し、加盟店が駐車場を利用した買物客に配布することで、その分の駐車料金が割引となる。</p> <p>⑥ お知らせ機能があるスマートフォンアプリについては、安価に対応できる方法がないか検討したが、既存の「すまいるバスナビ」があることから導入を見送った。位置情報サービスについては、令和 3 年 1 0 月以降も京福バスが提供している「京福バスナビ」として継続していく。自動音声サービスについては、まちづくり福井(株)による事業終了に伴い廃止となる。</p>

# 外部点検対象事業 取組状況調査票

所属	地域交通課
----	-------

## I. 事業概要

点検年度	H 2 9	事業名	地方バス路線等運行維持事業、 地域コミュニティバス運行支援 事業	所属	都市戦略部 地域交通課
事業目的	(地方バス路線等運行維持事業) 市民の日常生活に必要なバス路線等の運行を確保維持すること。 (地域コミュニティバス運行支援事業) 公共交通空白地域・不便地域の解消、及び地域内移動や既存の幹線的なバス路線等との連携による広域的移動の利便性向上。				

## 2. 外部点検の提案内容及び提案を踏まえた具体的な取組内容（令和3年7月末時点）

提案内容	①今一度現状の把握をしてほしい ②親が送り迎えをしている学生の利用についても、連携して取り込めるようにしてほしい ③停留所について、異なるバスごとに少し離れて設置されているケースがあるため、一度点検を ④地方バス路線と地域コミュニティバスが、連携、調整、協議をしてほしい ⑤バスは便利であるということを、広く知らしめる
提案を踏まえた具体的な取組内容	① 平成29年6月～8月にかけて、清水グリーンライン沿線世帯に対しアンケート調査を行い、回答世帯3992世帯のうち1023世帯、2,462人から回答があった。 このアンケートでも、送迎負担の軽減が図られたという意見がある一方、利用しない割合も多く、バス自体の存在を知らない、時刻表が分かりにくいなどの意見もあったことから、バス全体の現状を把握し、特に弱みに対して適切なアプローチを図り今後のバス政策に生かしていきたい。 平成30年10月に多くの路線でダイヤ改正を行い、大幅に路線を整理した。第二次福井市都市交通戦略では、現状の交通サービスの提供状況を踏まえ、フルデマンド化や路線の統廃合等によって、効率的な運行形態の見直しを実施することとしているため、今後も役割は整理していく。  ② 「京福バスナビ」については、平成28年度から約10万件を超えるレビュー数があることから今後も継続して利用していき、周辺に公共交通機関がある学校に対し、引き続き周知を行っていききたい。学校からダイヤ調整等の要望があれば引き続き事業者と検討を行い、利用促進につなげていきたい。また高校への通学に利用する前の市内の中学3年生に対し、福井県内のバスなどの路線がまとめられた「のりのりマップ」を配布している。  ③ 停留所は各事業者の方針に基づき現在の設置場所に決定していることを確認した。  ④ 地域コミバスと路線バスとの競合も含めフルデマンド化や路線の統廃合等によって、効率的な運行形態の見直しを実施することとしているため、今後も引き続き事業者と行政、地元の協議会で協議を行っていききたい。  ⑤ 過度に車に依存した現在の社会状況を見直し、可能な範囲で車による移動から公共交通や自転車による移動への転換を図るため、地域住民・関係団体・NPOとの協同により、「知ってもらって使ってもらう」ために、モビリティ・マネジメントの推進を行っている。 平成30年度676人、令和元年度423人、令和2年度112人と公共交通に関する出前講座での実績があることから今後も継続して行っていく。

外部点検対象事業 取組状況調査票

所属	地域包括ケア推進課
----	-----------

Ⅰ. 事業概要

点検年度	H 2 9	事業名	多機能よろず茶屋設置事業	所属	福祉保健部 地域包括ケア推進課
事業目的	<p>介護保険法の改正に伴い、本市では平成 29 年 4 月から要支援者を対象にした訪問介護・通所介護が、市が基準・料金等を定める事業に移行した。そのうち、ゴミ出しや買物代行などの専門性が高くないサービスについては元気な高齢者を中心とした住民ボランティアなどによりその一部を担うことが期待されており、その担い手を育成する。</p> <p>また、高齢者のこうした社会参加により、本人の介護予防と地域でのささえあう仕組みにつながり、将来の介護人材の不足への対応が期待できる。</p>				

Ⅱ. 外部点検の提案内容及び提案を踏まえた具体的な取組内容（令和 3 年 7 月末時点）

提案内容	<p>①新規の設置や毎年度 3 つずつということではなく、いきいき長寿よろず茶屋を確実に取り組み、そのプラスアルファということではやっていってはどうか。緩やかな転換を促していってはどうか。</p> <p>②地域まるごと、自治会や社会福祉協議会、各種団体の協力が必要であるため、話し合いをしてほしい。</p>
提案を踏まえた具体的な取組内容	<p>① 市内に設置されている 4 カ所の多機能よろず茶屋（以下、ささえあいの家とする。）のうち、いきいき長寿よろず茶屋からの転換による立ち上げは、平成 2 8 年度のモデル事業時に 1 カ所、以降令和元年度に 1 カ所、令和 2 年度に 1 カ所、となっている。今後も、ささえあいの家の新規の立ち上げを支援するとともに、既存のいきいき長寿よろず茶屋に働きかけを行い、ささえあいの家への緩やかな転換を促していく。</p> <p>② 平成 2 8 年から 2 年間でモデル事業実施期間とし、運営に携わる地域住民、高齢者施設職員、地域包括支援センター職員、福井市社会福祉協議会職員、民生委員等で運営委員会を開催した。今後も、地域ケア会議等を通して各種地域団体と連携をさらに深め、地域課題の発見や地域資源の情報共有に取り組んでいく。</p>



# 外部点検対象事業 取組状況調査票

所属	都市整備課
----	-------

## I. 事業概要

点検年度	H 2 9	事業名	景観推進事業、景観支援事業	所属	都市戦略部 都市整備室
事業目的	（景観推進事業） 福井市の自然や歴史、文化を再評価、再認識するとともに、景観形成に関する事項をまちづくりの中に取り込むことで、「福井らしい景観」「住みたくなる心地よい景観」の形成を図る。 （景観支援事業） 地域住民等が自らまちづくりを考え、地域の特性を活かした個性的で魅力ある身近なまちづくりを推進するため				

## 2. 外部点検の提案内容及び提案を踏まえた具体的な取組内容（令和3年7月末時点）

提案内容	①補助金を活用し、景観活動を行う団体は、5 年で打ち切っては活動が続かないため、6 年目以降も少しでもいいので支援出来ないか ②まちづくり、景観について、市政広報に現状や経過を掲載し、発信してほしい ③しっかり市民に分かってもらえる景観のまちづくりをしてほしい
提案を踏まえた具体的な取組内容	① 過去に補助を行った団体に対し、福井の景観資源の保全・活用策を議論するセミナーへの参加を呼びかける、国の補助制度を紹介するといったフォローアップを行った。 また、関連する補助制度である福井市民間活力をいかした県都の顔づくり事業にて補助を行った団体に対し、アンケート調査を行い、継続的に活動を行う際の課題等を把握した。 継続的に取組を行えていない団体もいたことから、補助を行った団体については、継続的に取組状況を聞き取り、関連する補助制度を紹介する、活動時の課題解決におけたアドバイスを行う等の団体の取組状況に応じたサポートを行っていく。 ② 平成 30 年 6 月 10 日号広報ふくいにて、景観美上昇中という特集記事を作成し、浜町界隈や福井城址周辺等の景観まちづくりの現状や移り変わりについて、福井カメラ女子の会が撮影した写真とともに紹介した。 また令和元年7月には、福いっぱいテレビ及び福井街角放送にて、福井市民間活力をいかした県都の顔づくり事業補助金を活用し、良好な街並み景観を創出した建物の紹介、実施者へのインタビューを行い、発信した。 多くの市民に、福井の景観が良くなっているという実感を持っていただけるような情報発信を行った。 ③ 令和2年度より、北陸新幹線の金沢～敦賀開業に向けて、嶺北連携中枢都市圏の優れた景観資源を発信する、ふくい嶺北連携中枢都市圏景観 PR 映像を制作している。 越前水仙群などの越前海岸をテーマとした動画や、秋、冬を中心に撮影した養浩館庭園の紅葉、一乗谷の雪景色などの景観スポットの動画等を撮影しており、令和3年度よりハピテラスの大型ビジョンやテレビ放送を通じ発信する予定である。 このことで、市民が身近な景観の良さに気づくきっかけとするとともに、ふるさと福井に対する愛着や誇りの醸成を図っていく。

# 外部点検対象事業 取組状況調査票

所属	市民協働・ボランティア推進課
----	----------------

## I. 事業概要

点検年度	H 3 0	事業名	ボランティア活動支援事業、市民協働推進事業	所属	市民生活部 市民協働・ボランティア推進課
事業目的	（ボランティア活動支援事業） ボランティア活動が一層盛んになることで、市民活動の裾野が広がり、地域コミュニティ活動や市民組織の活動の活性化にも繋がることから、ボランティア活動の促進を図る。 （市民協働推進事業） 非営利公益市民活動を促進するための助成事業や市民活動団体のニーズに応じた支援セミナーの実施、行政側の意識啓発を目的とした研修事業の実施等を通じて、市民協働を推進する。				

## 2. 外部点検の提案内容及び提案を踏まえた具体的な取組内容（令和3年7月末時点）

提案内容	①市民協働推進事業の目的として、協働事業の推進も重要であるが、その担い手である市民活動団体や NPO を育てることも重要。最近の取り組みを見るに、育てる部分が弱くなっているように思う。市民活動団体の育成にも力を入れるべき。 ②ボランティアの活性化や意識醸成のために、ボランティア活動を公民館を中心として地区レベルで促進させて欲しい。 ③子どもボランティア活動協力校の指定ペースをもっと早く進めて欲しい。 ④雪かきボランティアくらいは有償ボランティアとしてコーディネートしてもいいのではないか。 ⑤国体のレガシーとして、国体後も日常生活や社会をよりよくするためのボランティアグループや活動が継続され、根付くようなプログラムやシナリオをきちんと用意して欲しい。 ⑥現在のチラシでは、市民の関心を引かない。今後は市民のみなさんに関心を持っていただけるようなチラシを作って欲しい。
提案を踏まえた具体的な取組内容	① 例年実施している、公益的事業に助成する「ふくい市民活動基金助成事業」により、市民活動団体の育成と新たな事業の創出につなげている。令和2年度に13団体、令和3年度には11団体の事業に助成を決定している。また、団体の運営力向上のため、従来からの助成金獲得方法のほか、SNSなどを利用した新たな活動形態を提示するなどの講座も取り入れ実施している。 ② 令和2年度に、公民館職員、市民活動団体及び採用5年目の職員が、地域に根ざした様々な活動の現状について意見交換等を行う研修会を開催した。今後も生涯学習課と連携し、地域でのボランティアの活性化や意識醸成を図っていく。 ③ 指定ペースを一気に速めるのは難しいが、将来のボランティア活動の担い手を増やしていくため、学校に対してより良い活動プログラムなどを提案したり、講座などを実施している。 ④ 障がい者や高齢者については、有償サポートや市社協の雪かきボランティアなどがあるが、通常ボランティアセンターでは、これらにつなげていくことを行っている。 ⑤ 国体後も気運の高まりがボランティアとしての継続的な活動につながっていくよう、講座と体験をパッケージにしたボランティアアカデミーなどの支援事業を充実し、ボランティアコーディネーターによる相談事業を通して活動の場の創出に努めている。 ⑥ 市民の目を引くようなチラシ作りのため、広報に関する講座受講などを通して職員のスキルアップに努めている。



外部点検対象事業 取組状況調査票

所属	放課後児童育成室
----	----------

Ⅰ. 事業概要

点検年度	H 3 0	事業名	放課後児童健全育成事業	所属	教育委員会 放課後児童育成室
事業目的	共働き家庭や核家族の増加に伴い、放課後留守家庭児童が安心安全に過ごせる場所の確保と適切な遊びを提供するとともに、保護者が安心して仕事に専念できる環境を整えるために本事業を実施する。				

2. 外部点検の提案内容及び提案を踏まえた具体的な取組内容（令和3年7月末時点）

提案内容	<p>①放課後留守家庭児童の受け入れに、民間企業の参入を視野に入れて欲しい。そのときには過度な行政支援とならないよう気をつけて欲しい。</p> <p>②従業員がエリア的に狭い範囲から通勤している企業では、企業内の施設で児童の預かりサービスをしてはどうか。</p> <p>③児童クラブの入会基準の見直しが必要ではないか。</p> <p>④保護者負担について、もう少し増やしていく方向性を考えてもいいのではないか。</p> <p>⑤学校以外の公共施設を活用してもいいのではないか。公共施設の転用を積極的に考えてもいいのではないか。</p> <p>⑥保育士や教員の退職者を、スタッフとして積極的に採用するような流れを作ってもいいのではないか。</p> <p>⑦エアコンの整備が行き届いてないところがあるので整備して欲しい。</p>
提案を踏まえた具体的な取組内容	<p>① 現在、放課後児童健全育成事業の実施に当たり、市では運営実績がある社会福祉法人や NPO 法人、地域の運営委員会等に事業を委託している。今後、受け入れ態勢を持続させていくにあたり、必要に応じて運営ノウハウを持つ民間企業の活用も検討していきたい。</p> <p>② 企業内での預かりサービスは、放課後児童健全育成事業とは性質が異なり企業の福利厚生サービスの一環に該当すると考えられるため、実施に至っていない。</p> <p>③ 本年度、令和4年度の入会申し込みに向けて保護者や児童クラブの負担軽減を図るため、入会申込書の様式や必要書類を統一するとともに、入会希望者への説明資料を作成して入会要件の明確化を図った。また、申込開始日と締切日を見直し、入会決定通知を送付するまでの調整期間を十分に設けることとした。</p> <p>④ 保護者負担については、全国的に4,000 円／月～6,000 円／月で設定している自治体が一番多くなっており、市も5,000 円／月としているところである。会費を増額することは低所得者等への負担の増加になり、預けたいが預けられない状況にも繋がりがねない。一方、安定的な児童クラブ運営の点についても十分考慮し、双方のバランスに配慮していきたい。</p> <p>⑤ 国の新・放課後子ども総合プランでは、学校内の余裕教室や特別教室の徹底的な活用促進を示している。これを受けて、市では学校の空き教室の活用を進めてきた。一方、地区によっては学校以外の施設を活用しなければならない状況も考えられる。令和2年度からは、施設マネジメント計画で検討対象となっている施設について建物の維持補修や改修費用を考慮した上で、児童クラブを実施する場所として利活用が可能か関係所属と協議している。</p> <p>⑥ 保育士や教員の退職者の採用は、保育園や学校でも人員不足が課題となっておりそちらで再任用する流れがある。スタッフの確保は、事業を受託している各児童クラブ運営委員会がハローワークや雑誌等を通じて募集をしているが、応募者が少ない状況である。市でも、新学期や長期休暇等に合わせて市政広報やホームページで案内をすることで募集に協力している。スタッフを確保するにはある程度の給与水準が必要であるため、平成31年度からスタッフに対する処遇改善策</p>



	<p>としてキャリアアップ処遇改善加算を取り入れている。</p> <p>⑦ エアコンは、児童クラブの新規開設時に必要な整備を行うため、児童が宿題をしたりおやつを食べたりする児童クラブ室や静養する部屋には整備している。児童館にある遊戯室は、小学校の体育館と同様の扱いと捉えられており設置には至っていない。近年の暑さを考慮して活動内容を計画したり、他の部屋の冷気を取り入れるなどして快適な環境に配慮した運営を行っている。</p>
--	--

外部点検対象事業 取組状況調査票

所属	しごと支援課
----	--------

Ⅰ. 事業概要

点検年度	H30	事業名	シルバー人材センター支援事業	所属	商工労働部 しごと支援課
事業目的	高齢者が持つ豊富な知識・経験・技能を積極的に活用できる就業を提供するシルバー人材センターを支援することで、高齢者への多様な就業機会を確保するとともに、社会参加による生きがいの創出や健康の維持などの福祉の向上への寄与を図る。				

Ⅱ. 外部点検の提案内容及び提案を踏まえた具体的な取組内容（令和3年7月末時点）

提案内容	<p>①今後のシルバー人材センターのあり方を総括、方向付けることが必要で、そのためには、会員へのアンケートだけでなく、サービス利用者アンケートで社会のニーズ等を把握することが大切ではないか。</p> <p>②ゴミ捨て、買い物代行などのワンコインサービスについては、きちんとPRすれば、もっとニーズがあるはず。</p> <p>③シルバー人材センターの経営に市民の代表を入れて欲しい。</p>
提案を踏まえた具体的な取組内容	<p>① 福井市シルバー人材センターでは、令和2年度中に、請負・派遣でセンターを利用している民間企業100社を対象にアンケートを実施した。（69社から回答）</p> <p>主な結果としては、満足度の面では大変満足・概ね満足の合計が97.1%を占めており、不満点としては、就業会員の高齢化を挙げる企業が多かった。</p> <p>センターに対する要望点として、会員の健康管理、会員が休むときの対応、就業している会員が感じている正直な気持ちを聞いて欲しい等の意見があった。</p> <p>今後の仕事の依頼については、継続的な仕事以外で会社敷地内の草刈り等のスポット的な仕事、不定期な仕事、資格を必要とする仕事等で検討しているとの回答があった。</p> <p>昨今の新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、会員登録は伸び悩んでいる現状があることから、事業を安定して継続していくため、今後もニーズの把握について模索するとともに、会員確保の取り組みに注力していくと聞いている。</p> <p>② 地域生活サポート事業「ワンコインサービス」については、事業周知パンフレットを公民館等の関係機関に配架してもらっているほか、ホームページや地区班長、ヘルパー等の口コミにより広く市民に向けて広報に努めており、令和2年度は458件の利用があった。</p> <p>また、年に1～2回のタウンメールを通じて、シルバー人材センターのPRを行うことで、サービスの利用促進を図っている。</p> <p>今後も幅広くPRできるよう周知広報の協力を努める。</p> <p>③ シルバー人材センターでは、学識・自治会・行政などで構成する「事業推進懇話会」の設置により、幅広く意見を伺いながら事業を実施している（令和2年度は新型コロナウイルスの影響で実施せず）。</p> <p>今後も、シルバー人材センターが広い視野と新しい視点を取り入れながら事業を展開できるよう、会の開催に協力していく。</p>

外部点検対象事業 取組状況調査票

所属	危機管理課
----	-------

Ⅰ. 事業概要

点検年度	H 3 0	事業名	自主防災組織支援事業、要支援者対策事業	所属	市民生活部危機管理局 危機管理室
事業目的	(自主防災組織支援事業) 自主防災組織の結成促進及び育成 (要支援者対策事業) 避難行動要支援者の災害時における支援体制の整備				

Ⅱ. 外部点検の提案内容及び提案を踏まえた具体的な取組内容（令和３年７月末時点）

提案内容	<p>①リアルなシミュレーションでの実践的なワークショップや研修会をもっと開催してはどうか。</p> <p>②地区間連携や協力関係を促すための研修会等を開催してはどうか。</p> <p>③防災のスキルを上げていくためにも、自主防災会の競技会を開催してはどうか。</p> <p>④地区間協定を結ぶ必要があるところでは協定締結を促していったほうがいいのではないかな。</p> <p>⑤防災のプロを育てるためにも、担当職員の異動のスパンを長めにとってもいいのではないかな。</p> <p>⑥何かあったときに自分の地区の自主防災組織がどの程度機能するのか評価できるチェックリストを作成してはどうか。</p> <p>⑦支援計画を作成している自主防災組織には、何らかのインセンティブを与えるというのはどうか。</p> <p>⑧自治会長と民生委員が連携協力するための説明会とか研修会を実施してはどうか。</p> <p>⑨例えば福祉のオアシスキット配布事業などの住民目線で実施されている事業を参考に、市の中でもう一度協議してよりよい策を検討して欲しい。</p>
提案を踏まえた具体的な取組内容	<p>① 防災訓練や研修会等において、ワークショップ形式の実践的な災害図上訓練（D I G）、避難所運営訓練（H U G）等を実施している。</p> <p>ただし、令和２、３年度は新型コロナウイルス感染症の影響より研修会等が実施できていない。</p> <p>②・④</p> <p>地区間連携については、研修会や防災訓練、出前講座等を通じて意識の醸成を図っている。</p> <p>ただし、令和２、３年度は新型コロナウイルス感染症の影響より研修会等が実施できていない。</p> <p>③ 防火委員会主催の「福井市自衛消防隊消防操法競技大会」のバケツ防火の部、小型ポンプ消火の部に参加している自主防災組織もある。消防局と連携しながらより多くの組織が競技大会に参加することができるよう、防災訓練や研修会等において周知している。</p> <p>なお、令和２、３年度は新型コロナウイルス感染症の影響で競技大会の実施がされていない。</p> <p>⑤ 防災のプロを育てるため、リーダーシップを発揮できるスペシャリストの存在は重要と考え、全国で開催される防災関係研修会等を受講する他、他自治体の防災訓練の視察を行っている。また、異動のスパンについては職員課に申し入れをしている。</p> <p>⑥ 自主防災組織の防災力を客観的に確認し不足している部分を補うことは重要である。今後は、チェックリストを作成している自治体を参考にしながら福井市の特性に合ったチェックリストを作成し、研修会等で活用していきたい。</p> <p>⑦・⑨</p> <p>市の取組としては、既に計画を策定している地区との公平性を保つためにも、特定の地区にインセンティブを与えるよりも、個別支援計画の作成率が低いところで研修会や出前講座等を行うなど、計画の策定を促してきたが、令和３年５月の災害対策基本法の一部改正により市町村に計画策定が努力義務とされたことから、インセンティブも含め支援計画のあり方について制度の見直しを行っている。制度の見直しにあたり福祉部局が行っている福祉のオアシスキット配布事業</p>



など類似した事業と整合性を図りながら市民にとって利用しやすい制度設計を検討していく。

⑧ 平成30年度、令和元年度に自治会や民生委員などの関係団体に説明会を行った。

令和2、3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で説明会等が実施できていないが、新型コロナウイルス感染症が収束後は、自治会や民生委員等の避難支援等関係者が集まる機会を作り、制度の周知と計画の作成について説明会や研修会を行っていく。

# 外部点検対象事業 取組状況調査票

所属	女性活躍促進課
----	---------

## I. 事業概要

点検年度	H 3 0	事業名	輝く女性の未来予想図事業	所属	総務部 女性活躍促進課
事業目的	学生に自身のライフプランやキャリア・デザインを描き、福井での就職意欲を高めてもらう。また、働く女性の管理職への意欲を向上させる。さらに、男性や企業の女性活躍に関する意識改革を図る。				

## 2. 外部点検の提案内容及び提案を踏まえた具体的な取組内容（令和3年7月末時点）

提案内容	<p>①意識の低い人に関心を持ってもらい、かつ長い間持ってもらうためには、子どもや学生の頃から意識の醸成をして欲しい。</p> <p>②色んな企業が福井にあるので、誰もが知っている優良企業や大手企業ばかりではなく、零細企業や中小企業も入れて事業を進めて欲しい。</p> <p>③事業をSNSで発信し、情報を学生や若者のラインに乗せていって欲しい。</p> <p>④女性管理職のロールモデルを見つけるため、大手企業に行けば女性管理職がいるかもしれないと思うのは当然だと思うが、大手企業以外でも福井は女性が働きやすいことを印象づけて欲しい。</p> <p>⑤すばらしい冊子をせっかく作ったので、みんなの目に触れるところに置いて欲しい。</p>
提案を踏まえた具体的な取組内容	<p>① 高校生や大学生を対象に、「ライフデザインカード」を活用した出前講座を開催した。学生に自身の将来像を主体的に考える機会を提供し、福井での就労、結婚、子育て意識の向上を図っている。令和元年度は13回、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため1回のみの開催となった。令和3年度の開催数は7月末現在、1回であるが、今年度は合計5回程度の開催を予定しており、引き続き福井における就労等の意欲向上を図る。</p> <p>また、小中学生を対象に、福井市で働く男女それぞれの仕事への思いや働く姿を映像にまとめた意識啓発教材「夢への招待状」の活用を推進しており、性別に関わらず個性や能力を活かした職業観の醸成につなげている。</p> <p>② 女性活躍やワーク・ライフ・バランスなど、福井の職業生活における課題解決を目的に令和2年度に福井市独自の診断システム「Fukurea（フクリエ）」を制作した。このシステムは、福井県内に事業所をおく企業や団体が活用できるものであり、大手企業ばかりでなく、中小零細企業においても活用を促し、企業の自主的な取組促進に繋げている。また、女性活躍に関する各種事業において、福井県内の様々な企業に対し、各種セミナーや交流会等の開催を周知し、異業種間における意見交換等の場も提供している。</p> <p>③ 「Fukurea（フクリエ）」の機能の1つであるWEBメディア「FUKUI WORK STYLE CAFE」をSNS（InstagramやFacebook等）でも発信し、福井にも活躍している人がたくさんいること、魅力的な企業がたくさんあることに気付いてもらい、学生や若者に対する福井での就労等の意欲の向上を図っている。</p> <p>④ 女性の管理職、キャリアアップへの意欲向上と上司の女性管理職登用への意識改革を図るため、職場を越えた女性の交流会を開催した。令和元年度は、ビジネスシーンで活躍している女性による講演会や、市内企業で管理職等として活躍している女性達によるパネルディスカッション及び参加者を交えた座談会を開催し、79名が参加した。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため中止としたが、令和3年度も市内企業で働く女性管理職や柔軟な働き方を実践する女性をロールモデルに迎え、福井で働くことについて意見交換する交流会を開催している。交流会でまとまった、女性たちが理想とする働き方を市内企業に向けて発信することで、企業における女性の働きやすい環境整備を図っていく。</p> <p>⑤ 公共施設への設置の他、市HPへの掲載や、女性の交流会の参加者、各企業へ配布し、女性のキャリア形成意識の向上や、男性の家事・育児参画意識の向上に繋げている。</p>

# 外部点検対象事業 取組状況調査票

所属	生涯学習課
----	-------

## I. 事業概要

点検年度	H30	事業名	市民憲章推進事業	所属	教育委員会 生涯学習室
事業目的	<p>昭和39年に制定された「不死鳥のねがい」福井市市民憲章は、福井市民の不屈の精神と、燃える郷土愛を精神的な支柱として、まちづくりの目標であり、市民生活の指標・規範、よりどころである。</p> <p>不死鳥のねがい（福井市市民憲章）推進協議会は、不死鳥のねがいの趣旨に則り、愛市運動の推進と実践を目的に事業を実施している。</p>				

## 2. 外部点検の提案内容及び提案を踏まえた具体的な取組内容（令和3年7月末時点）

提案内容	<p>①市民憲章をPRするためにも、フェニックスの意味や市民憲章ができたときの経緯を知らせることもいいかと思う。また見える化してはどうか。その場合にSNSを使ってはどうか。</p> <p>②市民憲章を小学生の作文などの課題としてはどうか。また、副読本の1ページに掲載、もしくは挟み込んでもいいのではないか。</p> <p>③憲章の5つの事項で、子どもたちにどれが好きか、どれなら自分でできるかというのを調べ、憲章に親しんでもらってはどうか。</p> <p>④実践目標を新たに作るときに、一つずつにキャラクターを載せてはどうか。そのキャラクターを子どもたちから募集してはどうか。</p> <p>⑤年に一回、広報紙に市民憲章のことを掲載してはどうか。</p> <p>⑥どこの課が市民憲章の何番について何をどうしているのかということを確認することで、市として取り組んでいるものがわかり、市民の方にも言いやすいと思う。そういう資料を揃えるといいかと思う。</p> <p>⑦市民憲章を英文に直したものを日本語のものと合わせて中学校に配布していくと、英語の勉強にもなり良いのではないか。</p>
提案を踏まえた具体的な取組内容	<p>① 市ホームページにおいて、「不死鳥」の由来や市民憲章誕生の経緯とそのあゆみについて掲載している。また、市民憲章推進協議会のFacebookにおいて、協議会の活動や支部、賛同団体の取組について、随時掲載し、情報発信を行っている。</p> <p>市民憲章の普及・啓発のため、毎年啓発グッズを作成し、公民館を通じて市民に配布しており、令和3年度は、配布先に市内小中学校の児童・生徒（小学校3年生と中学校2年生）を加え、配布物として、市民憲章啓発グッズ（憲章文と実践目標入りのマグネットステッカー）と啓発チラシ（市民憲章の意味や誕生の経緯などを記載）を作成し配布する（配布は8月）。啓発チラシについては、市ホームページと協議会Facebookにも掲載する予定。</p> <p>②・③</p> <p>市民憲章実践目標の第3回改定時（H31.4.1）に実施した公募において、市内小中学校に作品の応募を依頼した（応募期間 H30.12.1～H31.1.31）。その依頼の際、募集要項とともに市民憲章についての説明資料を添付し、周知を図った。冬休みの時期に重なったことから、宿題として取り組んだ学校もあり、多数の応募があった。</p> <p>④ 「不死鳥のねがい（福井市市民憲章）」は、昭和45年より、フェニックスをシンボルとしたロゴマークを制定しており、平成26年の制定50周年の際には、より多くの市民に親しみを感じてもらえるよう、市内在住、市内在勤・在学の方から新デザインの募集をし、現在のロゴマークへリニューアルした。新たなマークやキャラクターを設定するのではなく、現在のロゴマークを含めた市民憲章の認知度向上に努める。</p> <p>⑤ 定例的ではないが、実践目標の改定時や設定期間の見直しに合わせ掲載している。</p>



⑥ 市民憲章の推進については、市民の方々一人ひとりの実践を促していくことを主眼に行っていくものであるため、生涯学習課を中心に、市民憲章に賛同している各種団体の広報支援を行うこと、また、団体同士や市関係部局との連携支援を行い、賛同団体の活動の活性化を支援することで市民憲章の周知や推進を図っている。

<広報支援>

- ・協議会のホームページや Facebook に団体の活動（イベント情報や報告）を掲載
- ・団体のチラシ及び広報誌等を支部（公民館）に配置依頼

<連携支援>

- ・団体等からの事業提案などに対し、団体同士や市関係所属との連絡調整

（例）「福井市を美しくする運動」（共催：市民憲章推進協議会、自治連、福井を美しくする会）

- ・周知広報：生涯学習課
- ・ゴミの収集：クリーンセンター、収集資源センター
- ・公園の草刈り後の処理：公園課
- ・側溝の泥上げ後の処理：監理課

⑦ 令和2年4月に、市民憲章文の英語訳を作成し、ホームページに掲載した。

また、市内小中学校全校に、市民憲章文の通常版と英語版を、制定の経緯等を掲載した冊子「不死鳥のねがい50年」とともに配布し、郷土学習や英語授業等で活用してもらうよう周知した。

外部点検対象事業 取組状況調査票

所属	地域包括ケア推進課
----	-----------

I. 事業概要

点検年度	H30	事業名	ひとり暮らし高齢者福祉サービス事業、自治会型デイホーム事業、地区敬老事業	所属	福祉保健部 地域包括ケア推進課
事業目的	<p>(ひとり暮らし高齢者福祉サービス事業)</p> <p>健康上の理由や親族の支援が得にくい等、在宅での生活に不安のあるひとり暮らし等の高齢者に対する見守り及び生活支援を行うことで、在宅生活を続けられるようにすることを目的とする。</p> <p>(自治会型デイホーム事業)</p> <p>65歳以上の高齢者を対象に、集会場等の地域住民にとって最も身近な活動拠点を利用し、健康づくり、仲間づくり、生きがいつくりによって、閉じこもりや寝たきり、認知症を予防することを目的とする。</p> <p>(地区敬老事業)</p> <p>地区民の敬老精神を培うとともに地区高齢者の心身の健康増進を図ることを目的とする。</p>				

2. 外部点検の提案内容及び提案を踏まえた具体的な取組内容（令和3年7月末時点）

提案内容	<p>①若い人、これからつないでいてもらう人にこういうものがある、こういう役割の人がいるということを説明というか、目に見えてわかるようなシステムを作るとか、広報をしていくと、なり手が増えるのではないかな。</p> <p>②もっと事業の広報をして欲しい。</p> <p>③デイホームに参加していない元気な高齢者に準備や手伝いを役割として任せてはどうか。</p> <p>④男性の参加が少ないということだが、男性に机の配置などの事業の準備というような役割を与えると、出てきてくれるかと思う。</p> <p>⑤敬老会において、スペシャルデイホームの内容を知らせることで、デイホーム参加者数の増加を図って欲しい。</p> <p>⑥せっかくできた元気度調査表を各戸配付して、その後どうしていくのか。その有効活用について考えて欲しい。</p> <p>⑦秋に年表形式の一覧にしたものを作成すると言っていたが、その冊子をこれからどう配布して、どう利用していくのかということこれから示していただくとわかりやすいのではないかな。</p> <p>⑧SNSで広報することで、参加者のモチベーションの高揚を図って欲しい。</p>
提案を踏まえた具体的な取組内容	<p>①若い人への広報については、敬老会のアトラクションの中で、小中学校の児童やその両親を加えた三世代交流事業を行い、地区敬老の精神や、高齢者と共に暮らす地域づくりの意識を啓発している。</p> <p>②市民に手にとってもらいやすいよう、高齢者福祉サービスや介護保険サービスを掲載した「すこやかBOOK2018」を作成し配布している。また、「すこやかBOOK2018」を市政広報で周知し、市民ホールや各総合支所への設置や各種高齢者イベントでの配布を行っている。</p> <p>③介護サポーター事業の中で、自主開催型デイホームのお手伝いを活動の一つとして位置づけ、元気な高齢者に活動をして頂いている。また、住民主体の介護予防活動である「いきいき長寿よろず茶屋」において、活動の担い手として活躍して頂いており、さらに市内各地区での「いきいき長寿よろず茶屋」の設置を目指し、元気な高齢者の活躍の場を増やしていきたい。</p> <p>④男性高齢者のデイホームの参加を進めるためには、役割を担ってもらうことも大きな効果があると思われる。それぞれが、これまでのキャリア形成で身に着けたスキルを発揮できる場を提供できるよう、デイホームの開催方法や活動メニューを検討し、提案していきたい。デイホーム専任職員の研修等を通して、依頼していく。</p>

	<p>⑤ デイホームに転倒骨折防止体操や認知症予防など介護予防に特化した取組を取り入れ、各公民館でのデイホームに関する展示などにより、参加者の増加を図っている。</p> <p>⑥ 平成29年から全戸配布を行っているが、やり方が分からない方ややったことがない方もいるため、高齢者が集うイベントや包括支援センターの介護予防教室で、元気度調査の集団実施を行った。また、今年度はコロナワクチン接種会場において実施し、接種の順番待ちをしている高齢者からも好評であった。元気度調査の実施後は、早期からの介護予防活動や認知症の予防や早期発見等、高齢者の適切な支援につなげている。</p> <p>⑦ 「すこやかBOOK2018」は、元気高齢者の社会参加から、要介護となった際に利用できる福祉サービスまで、高齢者に関わる幅広い有用な情報を掲載している。介護者や要介護者はもちろん、元気な高齢者や、これから高齢者の支援者にも手にとってもらい、福祉の手引きとして利用してもらえよう、市政広報やホームページ等で周知するとともに、デイホーム、老人クラブ、自治会の出前講座などの機会を活用して配布し周知を行っている。</p> <p>⑧ デイホーム活動について、委託先である福井市社協のホームページおよび同公式 Facebook 等において、活動内容や開催内容を写真付きで掲載しており、福祉関係団体などからの反響があり、デイホームとのコラボ企画も生まれ、参加者のモチベーション向上に繋がったものと考えている。</p>
--	---



外部点検対象事業 取組状況調査票

所属	環境政策課
----	-------

Ⅰ. 事業概要

点検年度	H30	事業名	自然環境保護・活用事業、環境教育・普及事業	所属	市民生活部 環境課
事業目的	本市の豊かな自然やそこに生息する多様な生き物を守り育て、将来に伝えていくため、地域住民や市民組織等による自然環境の保全・再生活動を促進する。また、環境保全活動に関する講習会や自然観察会等を開催し、市民の環境に対する意識の向上を図る。				

2. 外部点検の提案内容及び提案を踏まえた具体的な取組内容（令和3年7月末時点）

提案内容	<p>①エコツーリズムは、これから市が主導すれば安心な事業の一つになるのではないかと。足羽山に関する事業の目玉として、取り組んでもらうのも一つかと思う。</p> <p>②連携中枢都市圏という嶺北の市町との取組の中で、一番いい方法を福井市が取り入れることで、福井市独自の事業も何かそこで見えてくるのではないかと。</p> <p>③自然環境保護に関する事業を、企業から協力が得られる事業にして、企業の支援を仰いで欲しい。</p>
提案を踏まえた具体的な取組内容	<p>① 足羽山は本市における代表的な里山の一つで、都市部に残された貴重な自然環境として、市民が身近に立ち寄り、自然について学び、自然と親しむ活動を行える場として整備が進んでいる。エコツーリズムに足羽山での環境活動を関連付ける取組については、竹林整備で協働する団体などとも協議を行ったが、遠方からの宿泊を伴う観光客を取り込んで実施する形式には、現地の状況により日々変動する実施時期の調整など課題が多く、取り組むには難しいと結論付けられた。</p> <p>しかしながら、足羽山の自然資源を活用した新たな事業を提案・実施していくことは重要であり、特に近年、自然を守り伝える担い手の減少が問題となっていることから、令和3年度からは若い世代と協働した取組を推進している。</p> <p>② ふくい連携中枢都市圏ビジョンに基づき、嶺北連携中枢都市圏域における広域での人材活用を行うことにより、圏域内住民の環境保全に対する理解を深め、環境保全活動の促進を図るため、令和元年度から「環境アドバイザー派遣制度」を連携市町に拡充して実施している。本事業は、様々な分野の環境アドバイザーの発掘及び登録を行い、市民団体等が環境学習活動を行う際に、より充実した内容となるよう専門的知識を有する講師の派遣を行うものである。</p> <p>令和元年度に圏域内の環境講座に係る講師・人材の発掘及び登録・派遣制度を創設し、令和2年度から圏域内の地域や学校で行われる環境学習活動へと派遣を開始している。</p> <p>③ 本市では、福井市環境基本計画を推進するため、福井市環境基本条例に基づき、市民・市民組織・事業者・教育機関等で構成する「福井市環境推進会議」を設置し、企業等から自然環境保護への協力を得ている。</p> <p>この推進会議の活動を広げていくため、平成30年度からは新たに「企業交流会」を開催しており、会員企業間の交流を促進し、非会員企業へ働きかけるなどして当会議の認知度向上と新規会員の獲得に取り組んでいる。また、環境フェアやパネル展などのイベント開催にあたっては、会員企業によるブース出展や展示コーナーを設けるなどして、本市で環境問題に積極的に取り組む企業としてPRすることで、会員としてのメリットを拡充するよう努めている。</p> <p>令和3年度からスタートした「第4次福井市環境基本計画」では、市民・市民組織・事業者等と行政が協働して取組を進めていくことを柱の一つとしており、今後も企業等に支援を仰ぎながら事業を実施していく。</p>

# 外部点検対象事業 取組状況調査票

所属	農政企画課、園芸センター
----	--------------

## I. 事業概要

点検年度	R 元	事業名	園芸総合振興事業、施設園芸普及拡大事業、園芸作物ブランド化事業	所属	農林水産部 農政企画課、園芸センター
事業目的	<p>（園芸総合振興事業）</p> <p>本市の農業は、稲作を中心として発展してきたが、農業経営的に厳しい状況が続いているため、稲作より収益性の高い園芸を推進し、農業所得を維持・増加させることが必要となっている。</p> <p>「農業活性化プラン」の基本方針においても園芸分野の生産拡大を進めており、園芸の生産量が確保できる体制を整える必要があるため、担い手農家や新たに園芸に取り組む農家の規模拡大に必要な施設や農業機械等の整備を支援する。</p> <p>（施設園芸普及拡大事業）</p> <p>本市農業の中心である稲作は、米価の低迷により経営環境が厳しくなっているため、園芸作物の導入や生産規模拡大、経営の複合化を進める。</p> <p>（園芸作物ブランド化事業）</p> <p>農家所得向上を図るために、本市の園芸作物である金福すいか、銀福すいか、越前水仙、オリーブのブランド化を進める。</p>				

## 2. 外部点検の提案内容及び提案を踏まえた具体的な取組内容（令和3年7月末時点）

提案内容	<p>①園芸に対する市の方針について、客観的な視点からの見直しや検討し、行政の支援のあり方や、園芸のあり方を見極めることが必要。</p> <p>②園芸に対する市の方針について、もっと市民に対してもPRして欲しい。</p> <p>③支援して欲しい人の発掘に努力してほしい。</p> <p>④支援は、事前の支援、具体的なハード整備、そして事後と、連続的に行って欲しい。</p> <p>⑤特産品（金福やきゃろふくなど）について、市民が実際に入手して味わって、そしておすすめするという流れが必要。</p> <p>⑥ブランド価値をあげるためや、若者が農業に携わるきっかけの推進につながるような技術の導入、検討、波及を進めて欲しい。</p>
提案を踏まえた具体的な取組内容	<p>①②</p> <p>園芸に対する市の方針については、農業者等の外部委員で構成する策定部会において検討・審議し「第2次福井市農業活性化プラン」を令和2年3月に策定し、4つある基本政策の1つとして「園芸の推進」を掲げている。同プランにおいて、園芸の推進の基本施策として「複合経営の推進」等の5つの基本施策を定めており、この施策を県やJA等の関係機関と連携し実施していくことで園芸の推進を図っている。また、同プランを市のHPへ掲載することで、市民に対する市の園芸に対する方針のPRを実施している。</p> <p>③ JA等の関係機関からの情報や農業者から直接ヒアリングするなどし、支援を希望する人の実態把握に努めている。</p> <p>④ ハード整備の補助事業の支援については、補助金の交付の事務をするだけではなく、現在の経営状況を踏まえた将来計画の策定の支援や、補助金交付後もその計画の達成状況についてのヒアリングやアドバイスなどについて、関係機関と連携して実施している。</p> <p>⑤ 市内の農産物直売所やスーパー等で特産品を販売しており、「福福館（ハピリン）」では、実際に味わって購入できるよう、隣接する郷土料理店で金福のカットスイカやきゃろふく等を使用した料理を提供し、食べて魅力を実感してもらった。また、市政広報で金福を含む特産品の特集掲載やInstagramを活用した情報発信を積極的に行い、知名度向上を図った。</p> <p>⑥ 金福すいかのブランド価値をあげるため、高単価で取引される県外出荷割合を令和6年度に30%を目標とし、良質苗の生産や園芸指導に努め、更なるブランド化を進めている。また、後継</p>

	<p>品種の早期完成にも取り組んでいる。</p> <p>新規就農者が、スムーズに園芸に取り組むことができるよう、ITC を活用したモニタリング機器を令和元年度から導入して、熟練農家の高い技術をデータ化し、マニュアル化を進めている。</p>
--	---



外部点検対象事業 取組状況調査票

所属	おもてなし観光推進課・国際室
----	----------------

Ⅰ. 事業概要

点検年度	R元	事業名	国内観光誘客事業、インバウンド推進事業	所属	商工労働部観光文化局 おもてなし観光推進課・国際室
事業目的	東京オリンピック、北陸新幹線福井開業、中部縦貫道県内全線開業など、観光誘客に向けた絶好の機会が訪れている。訪日外国人観光客も増加しており、国全体で、海外からの誘客に向けた取り組みが行われている。 この好機を捉え、旅行代理店などの旅行業関係者に向けた営業活動を行うとともに、一般人向けにも観光PRを実施し、観光誘客を増大させることで地域の活性化を図る。				

Ⅱ. 外部点検の提案内容及び提案を踏まえた具体的な取組内容（令和3年7月末時点）

提案内容	①観光戦略としてターゲットを明確にし、県と連携して、金沢とは違う福井の魅力をもっと強調して欲しい。 ②新幹線開業を間近に迎え、アクションを加速して欲しい。特に、お店のインバウンド対策など受入側のソフト対策を急いで行っていく必要がある。 ③海外からの観光客の移動手段としては、レンタカーが有効だと思うので、検討して欲しい。 ④福井市のエリア、旅行者や海外からの目線で見れば狭い。広域的な視点で連携して欲しい。 ⑤福井の位置が知られていないのはやはり寂しいので、しっかりとPRしてほしい。
提案を踏まえた具体的な取組内容	① 令和2年3月に新たな観光振興計画を策定し、本市を含めた「ふくい嶺北連携中枢都市圏域」の市町と協力し、観光ポータルサイトの受入れ環境の整備や広域周遊ルートの形成など、嶺北一丸となった観光戦略を進めていく。新幹線開業を控える中、首都圏をターゲットに県や関係市町との連携を図り、福井独自の魅力の発見や磨き上げに努め、福井の魅力発信を強化していく。  ② 本市のプロモーションの旗印である「福いいネ！」を活用し、オール福井で観光客を迎える「観光おもてなし市民運動」を充実、強化する。 お店のインバウンド対策としては、これまで実施してきた多言語化やWi-Fi環境の導入に対する補助事業に加え、令和3年度からは多言語翻訳機の導入やキャッシュレス決済の導入に対する支援も新たに補助メニューに加えて実施している。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、環境整備はまだ充分には進んでいないが、今後インバウンド観光が回復するのに合わせて、再度できるだけ多くの事業者インバウンド対策の必要性を説明し、官民一体となって取り組んでいく。  ③ 新型コロナウイルス感染症の影響がでる以前の時点で、訪日外国人観光客のうち約1割の方がレンタカーを利用していた。福井市でも福井駅に外国人観光客が入った後の交通手段として、レンタカーが有効であるという認識はしていたが、アフターコロナのインバウンド観光においてはレンタカーによる観光需要が一層強くなることも考えられる。 北陸新幹線の開業までに、何らかの形でレンタカーを活用した誘客ができないか引き続き検討していく。  ④ 訪日外国人観光客へのPRでは、東京やセントレア、関空から入った後の旅行の流れの一環の中で福井の観光をPRしている。 令和2年に始めた海外向けのSNSでも、「福井市」のエリアに限ったPRではなく、周辺市町の観光素材も活用し、「福井」のPRという視点で行っている。  ⑤ 令和2年10月から、さいたま市を中心とする新幹線沿線都市（26都市）で構成される東日本連携・創生フォーラムに参加し、位置も含めて首都圏向けの情報発信を図るなど、福井の認知度向上に努めている。

外部点検対象事業 取組状況調査票

所属	商工振興課
----	-------

I. 事業概要

点検年度	R元	事業名	マーケット開発支援事業、繊維産業稼ぐ力向上事業	所属	商工労働部 商工振興課
事業目的	<p>(マーケット開発支援事業)</p> <p>地域経済の活性化を図るため、研究開発から販路開拓まで、企業の様々な事業活動を一連のステージに応じて支援するとともに、本市産業への波及効果が見込まれる新事業の創出を促進する。</p> <p>今年度からは「ふくい嶺北連携中枢都市圏」における圏域の経済発展を牽引するため、市内企業と連携中枢都市圏内の企業が連携して行う新たな取組に対して支援をする。</p> <p>(繊維産業稼ぐ力向上事業)</p> <p>本市の基幹産業である繊維産業の成長を促進し、より強固な地盤を築くことを目指し、平成29年度より地方創生推進交付金を活用しながら、産学官金連携のネットワークを形成し、市場拡大が見込まれる成長分野である農業（園芸）分野への進出や、主戦場である衣料分野における国内外の販路開拓の強化に取り組んでいる。</p>				

2. 外部点検の提案内容及び提案を踏まえた具体的な取組内容（令和3年7月末時点）

提案内容	<p>①複雑で様々な補助制度があるため、在籍年数の長い専門的な職員を配置することも必要。</p> <p>②補助制度の対象として、もっと小さい企業を拾い上げて欲しい。</p> <p>③海外向けの販路開拓は、小さい企業には難しいため、むしろ国内でもっと販路拡大できるような施策が必要。</p> <p>④申請の方法はもっとわかりやすくして欲しい。国、県、市、商工会議所のすみ分けがわかるように。</p> <p>⑤市民対象の展示会なども必要。就職希望者数の増加にもつながる。</p>
提案を踏まえた具体的な取組内容	<p>① 令和2年度から経済産業省派遣経験を持つ職員を配置し、中小企業者支援、コロナ対策等を行っている。また、業務ごとに詳細なマニュアルを作成するとともに、業務内容を係内で共有し、専門性を高めている。</p> <p>② 小規模企業者への周知を図るため、令和2年度からホームページに補助金一覧を掲載するとともに、商工会議所、商工会等にも補助制度の周知を依頼している。</p> <p>また、新型コロナ対策として小規模事業者のみを対象に、令和2年度は「小規模事業者プロモーションチャレンジ支援事業」及び「小規模事業者持続化実行支援補助事業」を、令和3年度は「小規模事業者ポストコロナ対応加速化事業」及び「小規模事業者持続化実行支援補助事業」を実施した。</p> <p>③ 繊維事業者が従来のサプライチェーンに依らず、効率的かつ継続的に国内外のアパレルメーカー等と商談できる環境を提供するため、アパレルメーカー等とオンラインでマッチングを行うことができるECプラットフォームを令和2年度に整備し、令和3年度から運用を開始している。</p> <p>④ 国の中小企業基盤整備機構が全国の自治体の事業者支援策をまとめている「J-Net21」に市の支援事業を登録したほか、福井県産業支援センターへも支援策を登録し、情報の共有を図った。</p> <p>また、申請方法を分かりやすくするため、申請の流れを説明する資料及び申請様式をホームページに掲載した。</p> <p>⑤ 業種・分野・地域を超え、様々な企業・大学・研究機関等が一堂に会する「北陸技術交流テクノフェア」を産学官で連携して毎年開催しており、同フェアでは、企業関係者のみでなく高校生や大学生も訪れ、ものづくり技術に触れている。</p> <p>令和元年度からは、展示とは別に学生と企業の交流ブースを新設し、就職やUターンの促進を図っている。</p>



# 外部点検対象事業 取組状況調査票

所属	おもてなし観光推進課
----	------------

## I. 事業概要

点検年度	R元	事業名	一乗谷ブランドイメージ向上事業、まちなか滞在拠点化事業、越前海岸体験・体感観光推進事業、五感に響く体験・交流型観光推進事業、周遊滞在型広域観光推進事業	所属	商工労働部観光文化局 おもてなし観光推進課
事業目的	まちなか・一乗谷・越前海岸の観光3拠点の魅力を向上させるとともに、体験型観光メニューの充実を図る。 また、他市町との連携による、広域的な周遊・滞在型の観光を推進する。				

## 2. 外部点検の提案内容及び提案を踏まえた具体的な取組内容（令和3年7月末時点）

提案内容	①ターゲットを絞り、区切ってイベントを実施するとよい。 ②恐竜博物館を見て、一乗谷を訪れてもらうというコースもよい。 ③県外用の写真集で素晴らしいものがある。インスタ映えする場所もあり、活用していったほしい。 ④福井に観光に来て金沢に宿泊しないように「宿泊は福井で」という意識をまずは市民・県民に持ってもらえるようにしていかないといけない。 ⑤足羽山にはたくさんの魅力があるが、継体天皇のことや豊かな自然もあるので、もっと発信していった欲しい。
提案を踏まえた具体的な取組内容	① 令和元年度から今まで遺跡を訪れることの少なかったファミリー層や女性客に対してアプローチするため戦国宝探し・熱気球係留バルーン・遺跡ヨガなどを初めて実施した。令和2年度においてもより多くの誘客を図るため、インスタ映えする場所として和傘や風鈴を用いたスポットを創出し、若年層の取り込みを行っている。  ② 恐竜博物館内に一乗谷朝倉氏遺跡のポスターや本市のパンフレットを設置している。ターゲット層が博物館と同様のファミリー層向けに夏休み期間を中心として戦国宝探しなど家族で楽しめるイベントを実施している。  ③ 県外用の写真集「FUKUI CITY GUIDE」は福井を知らない方の多い大都市圏で主に使用する目的で制作している。商談会や旅行会社への営業だけでなく、新型コロナウイルス感染症収束後には、首都圏主要駅でのPRキャラバンや県外での出向宣伝などでも活用し、福井の素晴らしい場所・風景を知ってもらえるよう、より一層務める。  ④ 「宿泊は福井」ということももちろんであるが、前段として人や歴史文化、自然、食など福井の日々の暮らしの中にあふれている「福」に対し、市民、県民の誇りや自信を醸成することが必要である。福井の魅力「福いいネ！」を実感でき、おもてなしの心があふれるまちづくりのため、観光おもてなし市民運動の充実・強化に加え、イベントやSNSなどあらゆる機会を捉えて市民への機運醸成を図っていく。  ⑤ 足羽山と周辺エリアの魅力や活動は、福井市観光ポータルサイト「福いろ」の特集記事や足羽山魅力向上計画の各種取組を通してPRしていく。なお、足羽山アソブLabの活動は、軌道に乗ってきたことから、団体が自立して実施するようになった。



# 外部点検対象事業 取組状況調査票

所属	しごと支援課
----	--------

## I. 事業概要

点検年度	R元	事業名	U・I ターン就職促進事業	所属	商工労働部 しごと支援課
事業目的	大学生や県外在住の社会人に対し、企業訪問の実施や合同企業説明会の開催を通じて、U・I ターン就職を促進する。また、U・I ターン者を雇入れた市内中小企業を支援する。				

## 2. 外部点検の提案内容及び提案を踏まえた具体的な取組内容（令和3年7月末時点）

提案内容	<p>①福井の企業で働くことの魅力、福井で生活していくことの魅力を発信するコンテンツ、大学生の中でも話題になるくらいのコンテンツをつくる必要がある。</p> <p>②プロジェクトチームなどを作って、役割分担を明確にし、力強く展開をしていった方がいいのではないかな。</p> <p>③インターンシップとして複数の企業について仕事を学べる機会を提供しているところがある。そのような取り組みがあってもいいのではないかな。</p> <p>④定住促進のためには、中高生のうちからふるさとへの愛着心などを高めていくことが重要。</p> <p>⑤目標値について、視点を変えて、税金など経営的な観点で設定することも必要。</p>
提案を踏まえた具体的な取組内容	<p>① 大学生を対象にふくいU・I ターンサマーキャンプと企業訪問ツアー、社会人を対象に週末就活を開催し、福井の企業で働くことの魅力、福井で生活していくことの魅力を発信している。また、ふくいU・I ターンサマーキャンプと企業訪問ツアーについては、大学生にとって有意義なコンテンツとなるよう、令和元年度からプログラムの一部をノウハウを持つ民間に委託している。</p> <p>② オンライン移住相談会に参加し週末就活の説明をするなど、市移住定住推進室とは移住希望者に関する情報共有を密に行っている。さらに、庁内移住関係所属会議に参加し、各担当分野の情報共有を行い、市内への移住や市内企業への就職を促進するため、各所属と連携しながら支援している。また、市東京事務所、県Uターンセンター、福井労働局とも連携し、U・I ターン就職促進事業の周知を行っている。</p> <p>③ ふくいU・I ターンサマーキャンプでは4社、企業訪問ツアーでは2社の異なる業種の企業訪問を行うことができ、市内企業の仕事を学べる機会を提供している。</p> <p>④ 教育委員会が実施する小中学生の職場見学・就業体験「福井市キャリア教育プログラム事業」（対象学級ー令和1年度:260学級、令和2年度:203学級）について、企業に事業周知を行うことにより生徒に対するキャリア教育を推進している。また、高校生に対しても、先進的な事業を展開する市内企業への訪問等を通じて、将来の進路や仕事について考えてもらう就職支援事業を実施（令和3年度事業開始、実施時期:12月下旬）しており、福井での就職に繋がれるよう努めている。</p> <p>⑤ U・I ターン就職促進事業は、市内企業の就労者の増加を図るための事業であり、税金などの観点による目標値の設定は困難である。しかし、ふるさと納税の充実に加え、令和2年度からは地方創生推進交付金も充当しており、経営的な観点を持ちながら事業を推進している。</p>

外部点検対象事業 取組状況調査票

所属	有害鳥獣対策室
----	---------

Ⅰ. 事業概要

点検年度	R 元	事業名	有害鳥獣対策事業	所属	農林水産部 有害鳥獣対策室
事業目的	有害鳥獣による農作物被害や生活被害を減少させることを目標としている。 また、捕獲した有害獣の利活用について有効利用に向けて取組む。				

Ⅱ. 外部点検の提案内容及び提案を踏まえた具体的な取組内容（令和３年７月末時点）

提案内容	<p>①集落単位での取り組みがモノを言うので、地域力を高める取り組みをしていく必要がある。住民への指導や教育、研修などにより意識の転換を図っていかないと被害は減っていかない。</p> <p>②農業被害額の目標設定について、長期的には被害額をゼロにしていかなければならない。</p> <p>③ジビエとしての流通について、グループ単位のような規模なところから展開を考えてみてはどうか。</p> <p>④シカ、サル対策は後手に回らないように対策をお願いしたい。</p> <p>⑤カラス対策では、ごみステーションのレベルが違うのが問題。関係課へきちんと指導や補助をするように働きかけをしてほしい。</p>
提案を踏まえた具体的な取組内容	<p>① 福井県農林総合事務所と共同で集落点検を行い、電気柵など設置状況や集落の体制など聞き取り、現状や改善点、今後の対策について集落代表者らと話し合った。 また、イノシシ・シカ対策やサル対策について鳥獣害対策研修会を開催した。 そのほか、県とともにクマを集落に誘引する放任果樹を伐採する費用の一部を補助し、クマによる人身被害を防止する補助制度を創設した。</p> <p>② 電気柵やワイヤーメッシュ柵、ネット柵の導入支援を行うほか地元集落や捕獲隊と協力して有害捕獲を行い、被害額の減少に努めている。 また、福井県農林総合事務所と共同で集落点検を行い、電気柵など設置状況や集落の体制など聞き取り、現状や改善点、今後の対策について話し合った。</p> <p>③ ジビエの流通拡大や食する文化への理解を進めるため、イノシシやシカに馴染みのある山際の小学校でのジビエ給食を行うほか、イベント等でのジビエ料理のPRを行っている。</p> <p>④ シカの目撃がある集落には、高さのあるワイヤーメッシュ柵の導入支援を進めている。 また、サルの生息状況調査を行い、市内の目撃情報や被害状況について調査を行った。 引き続き、サルの群れの生息状況調査を行い群れの大きさや行動圏などを把握し、必要に応じて個体数管理を含めた対策について検討する。</p> <p>⑤ カラス対策について関係課に伝えるとともに、カラスの生活環境被害対策として夜間にカラスが多く集まる足羽三山周辺などカラスの追い払いを実施した。 引き続きカラスの追い払いを行い、市街地で夜間留まるカラスを少なくし、生活環境被害を減らしていきたい。</p>

外部点検対象事業 取組状況調査票

所属	商工振興課
----	-------

Ⅰ. 事業概要

点検年度	R元	事業名	商店街活性化支援事業	所属	商工労働部 商工振興課
事業目的	商店街を取り巻く環境は、消費の低迷、郊外への大型店舗の進出、ネット商取引の拡大などにより、大変厳しい状況におかれている。 また、経営者の高齢化により、商店街の加盟店は減少しており、商店街の自主財源のみでは集客につながる事業の実施が困難となっていることから、商店街が実施する魅力向上を目的とする。				

Ⅱ. 外部点検の提案内容及び提案を踏まえた具体的な取組内容（令和3年7月末時点）

提案内容	<p>①やる気のある人に補助したり、商店街の合併を促したり、根本的にやり方を変えていかなければならないのではないか。</p> <p>②まつりに商店街ごとのブースを作るとか、そういった取り組みが必要ではないか。</p> <p>③商店街に加盟しているメリットが感じられない。メリットを示すものや伝える機会があるとよい。</p> <p>④商店街で駐車場を確保するために、支援を行えないか。</p> <p>⑤シャッター開けているだけでも、子どもの通学路などの安全貢献になる。シャッターは開けておいてほしい。</p> <p>⑥ハード面での支援は他の部署でも行っている。商工振興課としてはソフト面での支援を行って欲しい。</p>
提案を踏まえた具体的な取組内容	<p>① 令和3年度からは、これまでのソフト事業への補助内容を変更し、新たな事業に取り組む商店街への補助制度とするなど、意欲のある商店街への支援を拡充している。また、合併についても希望する商店街がある場合には、引き続きサポートを行っていく。</p> <p>② 福井フェニックスまつり期間中は、各商店街がまつりの協賛行事としてイベントを開催し、商店街のPRや近隣住民とのつながりづくりを行っており、今後も引き続き支援していく。</p> <p>③ 商店街加盟のメリットは、共同での販促イベントなどを実施できることや様々な店舗と協力することで人の流れをつくり、様々な客層を取り込めることである。令和2年度からは、（一社）福井市商店街連合会が、商店街の魅力的な店舗をめぐるツアーやSNSによる加盟店舗の紹介など、各商店にとってメリットを感じるような新しい取り組みを実施している。このような取り組みを通して、商店街加盟のメリットを発信していく。</p> <p>④ 駐車場整備を含め、商店街に来ていただきやすい環境づくりに各商店街が取り組む場合は、県の補助制度等を活用しながら支援していく。</p> <p>⑤ 営業していない店舗のシャッターを開けることは、店舗側の防犯面など課題が多い。今後も賑わいのある商店街づくりのため、意欲のある担い手や魅力あるテナントを呼び込むことにより、子どもの安全対策に貢献できるよう商店街を支援していく。</p> <p>⑥ より商店街の活性化に繋がる支援を実施するため、商店街利用者の利便性の向上を図ることに特化した取り組みに対し、ハード整備も含めて支援していく。他部署の支援制度では、商店街が実施主体になれないなど、必要な支援を行えない場合がある。</p>



# 外部点検対象事業 取組状況調査票

所属	商工振興課、おもてなし観光推進課
----	------------------

## I. 事業概要

点検年度	R元	事業名	福井フェニックスまつり・ふくい春まつり開催事業	所属	商工労働部 商工振興課、おもてなし観光推進課
事業目的	<p>産業振興、観光振興、中心市街地振興を図るとともに、市民の一体感を醸成するため、福井の夏の恒例行事であるフェニックスまつりを開催する。</p> <p>足羽川の桜並木を観光資源として活用し、ライトアップやまちなか・足羽山でのイベントを通し、県外からの観光誘客を図っていくことを目的とする。</p>				

## 2. 外部点検の提案内容及び提案を踏まえた具体的な取組内容（令和3年7月末時点）

提案内容	<p>① マンネリ化しないように。</p> <p>② 実行委員会の開催が遅いのではないか。</p> <p>③ はたちのつどいの実行委員会のメンバーを加えてはどうか。</p> <p>④ 飛び入りの人に浴衣を着せるコーナーがあってもよいのではないか。</p> <p>⑤ 商工会議所主導になっているのではないか。福井市主導でもいいのではないか。</p> <p>⑥パンフレットにはクーポンをつけると、それを持って回るのでもいい。</p> <p>⑦各地区趣向を凝らして祭りを行っているので、研究して参考にして欲しい。</p>
提案を踏まえた具体的な取組内容	<p>① 北陸新幹線福井開業を見据えて見直し検討会議を実施している。見直しの方向性として、体験・参加型のまつりを目指しており、気軽に参加できる民踊大会への内容見直しや、こども水まつりなど参加型の新たな行事の新設などに取り組んでいる。引き続き新たなイベントを取り入れつつ、既存の行事を工夫、改善していく。</p> <p>② （フェニックスまつり）実行委員会は、例年3月ごろに前年の事業報告並びに同年開催概要及び予算を、6月ごろに開催内容を審議している。令和3年度は、まつりの開催予定日を例年よりも約1か月遅らせたため、実行委員会の開催日もそれに伴い後ろ倒しとなっている。開催日については、市の予算とそれを受けた各主催者の事業計画作成スケジュールを踏まえ、各行事の実施に向け最適な時期を設定しているものであり、今後も各主催団体からのご意見や社会情勢を踏まえながら開催していく。</p> <p>（春まつり）過去には11月頃に実行委員会を開催していたが、近年は実行委員会を8～10月に開催し、まつりの時期・概要についての方針を早期に協議・決定して、旅行会社との商談会や各種イベントにおいて情報発信を積極的に行うよう努めている。</p> <p>③ まつりに若い方の意見を取り入れることは大変重要だと考えている。令和3年度は、開催中止となったものの、一部の行事において県内の大学生が中心となった企画が予定されるなど、若い世代のまつりへの関わりも進んでいるところであり、今後ものはたちのつどいの方々を含めて、様々な意見を取り入れながらまつりの魅力向上につなげていく。</p> <p>④ 浴衣の貸し出しは、体験・参加型という観点や、インバウンド対応の面からも有効だと考えており、今後の実施に向け関係する団体等と協議を進めていく。なお、令和3年度は、開催中止となったものの、一部の行事において浴衣のレンタルや着付けサービスの企画が予定されていた。</p> <p>⑤ まとめ役は、市と商工会議所のどちらが主導しているということではなく、大切なパートナーだと考えており、今後も相互の役割や強みを活かして、まつりを実施したい。</p> <p>⑥ より多くの市民にまつりに関心を持ってもらい、地域経済の活性化につなげられるよう、商工会議所・福井市観光協会など関係機関との間でクーポンも含めた有効策について検討している。</p> <p>⑦ まつりの規模の大小を問わず、地域に根付くまつりの調査研究を行い、まつりの魅力向上につながると思われるものは取り入れていく。</p>